

表2-19-5-3 公開講座開講数（全学および部局開講）

| | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 年度 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 |
| 講座数 | 18 | 17 | 16 | 12 | 14 | 13 | 13 | 15 | 19 | 18 |
| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 講座数 | 22 | 27 | 20 | 25 | 30 | 31 | 24 | 25 | 21 | 23 |
| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | | | | | | |
| 講座数 | 19 | 8 | 9 | 23 | | | | | | |

第4項 けやき倶楽部の展開

本学の生涯学習支援について、特筆すべきものとして千葉大学生涯学習友の会「けやき倶楽部」の活動がある。大学が「生涯学習の場」を提供する先駆的取り組みとして1995年に創立され、2025年には30周年を迎える。同会は自主的な生涯学習のみならず、本学および地域社会にさまざまな貢献活動を展開している。

留学生に対する日本文化体験機会の提供、教育学部や文学部等授業への参加協力、2008年からは毎年千葉大学基金への協力をいただいている。本学からは学習室（学際研究棟）の貸出、公開講座等各種催事の情報提供、教員によるけやき倶楽部での講演等を提供している。

2020年に始まったコロナ禍による倶楽部への影響は甚大で、会員数は約300名から約200名にまで減少した。会員相互の対面交流が実施できない期間、オンライン形式や千葉市生涯学習センター利用により活動は継続され、2022年4月に学習室利用が再開した。現在15の自主活動グループが活動し、2022年9月にはホームページもリニューアルされ、新たな学習者を積極的に募っているところである。

第6節 厚生施設

第1項 学寮

現在の学生寮は、老朽化に加えて、学生の希望や現在の生活様式とのずれ、大学教育における学生寮の役割の変化などを勘案し、通学困難者（主に地方出身者）に、「安心・安全」な住環境を整備・提供すること、教育や学生支援に係る機能強化を図

ることを目的として整備している。

西千葉地区（小仲台）の稲毛寮（個室104室）および睦寮（個室59室）については2015年度をもって廃止、無名寮（個室90室）については2017年度をもって廃止となり、それらに代わり2016年に竣工した薫風寮（個室170室）に各学部の男子学生、女子学生（学部1・2年次）および留学生が入寮している。薫風寮はフロア単位でスタディールーム、リビング、キッチン等の共用スペースを多数設置しており、協調性やコミュニケーション能力の向上および留学生との国際交流を推進している。

亥鼻地区のさつき寮（個室34室）には医学部・薬学部・看護学部の女子学生（2年次以上）が入寮し、雄飛寮（個室60室）には医学部・薬学部・看護学部・医学薬学府・看護学研究科の男子学生が入寮している。

松戸地区の浩気寮（個室62室）には園芸学部の男子学生および女子学生が入寮している。

第2項 国際交流会館

国際交流会館は、A棟（1993年竣工、家族・夫婦室）、B棟（1993年竣工、夫婦室）、C棟（1995年竣工、单身室）、D棟（1995年竣工、单身室）、E棟（1996年竣工、单身室）および管理棟（1962年竣工、1996年改修）から成り立っている。

このうち、C・D・E棟は、留学生寮が建築後30数年経過し老朽化が激しいことから、1994年度および1995年度に建て替えられた。C棟のみ外国人研究者を対象とした居室を配備している。また、一部の居室をショートステイ学生対象に確保している。

管理棟は、事務室のほか、キッチン、コミュニティホール、相談室および和室などを備え、交流活動場所として活用されている。

老朽化が進んでいるが、近隣の家賃相場に比して安価であることも一因となり、コロナ禍で一時4割程度まで落ち込んだ稼働率は回復し、2022年10月現在、ほぼ満室となっている。

第3項 学生食堂、購買施設

学生食堂は、大学会館（西千葉地区・1731㎡）、亥鼻地区福利施設（275㎡）および緑風会館（松戸地区・202㎡）において、カフェテリア方式のメニューを中心に、千葉大学生生活協同組合が運営している。西千葉地区については、それまで点在し

ていた学生支援施設を改修・再配置したことに伴い、学生食堂を大学会館に集約し、2012年度からフードコートとして運営している。

購買施設は、西千葉地区の総合学生支援センター（ライフセンター）、総合校舎4号館、工学部11号棟、亥鼻地区福利施設および松戸地区の緑風会館に店舗が設置され、附属図書館内の書店（ブックセンター）とともに千葉大学生生活協同組合が運営している。

第4項 大学会館

大学会館は、教職員・学生相互の交流を深めるため、多目的に利用できる施設として1981年に竣工（2008年増築）した鉄筋コンクリート3階建ての建物で、総面積は2,642㎡である。1階には食堂、2階には食堂と文房具店（ショップYAMATOYA）、3階には会議室（2室）、和室（5室）、音楽鑑賞室が設置されている。

第5項 けやき会館

千葉大学けやき会館は、1993年度の補正予算により福利施設・大学ホールとして、1994年6月着工、1995年3月竣工した。

本館は、学术交流の促進を図り、本学における研究教育の発展に資するとともに、本学と地域住民との学術および文化の交流並びに本学教職員の親睦・交流に寄与することを目的としており、これまで多数の国際会議および研究会ならびに公開講座等を開催してきた。

「けやき会館」という名称の由来は、千葉市の「市の木」がケヤキであることや、住民と大学の架け橋として大きく育って欲しいとの願いを込めて命名されたものである。

同館の規模等は表2-19-6-1のとおりとなっている。

表2-19-6-1 けやき会館の規模

| 鉄筋コンクリート造 3階建 総面積2,620㎡ | | |
|-------------------------|------|----------|
| 大ホール | 480㎡ | 320席 |
| レストラン | 167㎡ | |
| 特別レストラン | 31㎡ | |
| 会議室－1 | 22㎡ | 10人程度収容 |
| 会議室－2 | 78㎡ | 40人程度収容 |
| 会議室－3 | 69㎡ | 40人程度収容 |
| 会議室－4 | 86㎡ | 40人程度収容 |
| レセプションホール | 201㎡ | 100人程度収容 |
| 中会議室 | 69㎡ | 20人程度収容 |
| 小会議室 | 39㎡ | 10人程度収容 |
| 和室 | 36㎡ | |

開館以来、学生・教職員に親しまれた1階のレストラン・コルザは、2020年4月からコロナ禍により休業を余儀なくされていたが、2021年度末をもって営業を終了した。

第6項 セミナーハウス山中寮

千葉大学医学部の前身である千葉医科大学時代の1932年から開寮している山中寮（山梨県山中湖村）は、医学部の学生実習等の場として利用されていたが、2003年に全面的に建て替え、全学の学生・教職員が利用する研修・厚生補導等施設となった。

セミナーやゼミ合宿等のほか、富士山7合目救護所における診療・救護活動に参画する医学部学生等のベースキャンプとしても活用されている。

第7節 奨学と支援

第1項 学費の免除

2017年12月の「新しい経済政策パッケージ」、2018年6月の「経済財政運営と改革の基本方針2018（骨太の方針）」において、意欲ある子供たちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充に